

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。  
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。  
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は、変更可能です。  
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

【様式1】

<p>&lt;エントリーシート&gt;</p> <p>※事務局記入欄</p> <p>No.: D-5</p>	<p>部門 先導的プログラム実践(平成30年度第1回組織マネジメント指導者養成研修、いじめの問題に関する指導者養成研修(仙台会場))</p>	<p>学校名 国立大学法人宮城教育大学(連携先:宮城県教育委員会・仙台市教育委員会)</p>
<p>活動名 <b>ミドルリーダーの協働的な育成—中央・地方研修の有機化と可視化</b></p>		
<p><b>課題の設定:</b></p> <p>課題1 教職大学院における選択科目としての中央研修の活用について、多面的・多角的な観点から事後学習をさらに充実させ、<b>学びの成果の可視化(エビデンス化)</b>を行いたい。課題2 教員育成指標の具現化について、自治体・大学が協働して探究し、教員の主体的な職能成長を目指していきたい。とりわけ<b>ミドルリーダーの養成は自治体教育センターと大学院で行われており、連携と協働が強化されれば、効率化や効果の増大が期待できるのではないか。</b></p>		
<p><b>方針・計画:</b></p> <p>宮城教育大学教職大学院の現職院生は、選択科目である授業の一部として教職員支援機構の研修を受講する(8~9月)。受講者の一部は、宮城教育大学が宮城県教育委員会と共同実施する、宮城県ミドルリーダー養成研修第2日「危機管理(いじめ防止)」(10月3日)のワークショップ・ファシリテーターとして、宮城県教育委員会が推薦する「いじめの問題」研修既習者とともに、受講内容を活用する。</p>		
<p><b>活動内容:</b></p> <p>①現職院生が、選択科目の一部として「組織マネジメント指導者養成研修」「いじめの問題に関する指導者養成研修」を受講する。②宮城教育大学は、宮城県ミドルリーダー養成研修第2日「危機管理(いじめ防止)」(受講者数123名。受講者は校長推薦による。)について、講義(上記いじめ問題研修と同じ講師による法理論)とワークショップを設定する。現職院生と「いじめの問題」受講者(宮城県教育委員会推薦)の計12名がワークショップのファシリテーターとなる。</p>		
<p><b>活動の成果:</b></p> <p>①「組織マネジメント指導者養成研修」および「いじめの問題に関する指導者養成研修」受講者は、現職院生の各環境において、ミドルリーダーとしての<b>チーム学校の実質化(協働的な学年経営や特別活動の充実など)</b>や、<b>いじめの問題について対応の見直しなどの視点</b>をもつようになった。          ②宮城県ミドルリーダー養成研修第2日「危機管理(いじめ防止)」の指導に関わった者は、<b>自分の立場や資質についてのメタ認知</b>をもち、<b>ミドルリーダーとして効果的に関わるにはどうしたらいいかを考えるようになった。</b>          ③宮城県ミドルリーダー養成研修第2日「危機管理(いじめ防止)」では、中央研修と同様のレベルによる、いじめ防止の法理論の学習とそれをふまえた活用に関する考察が、いじめ問題研修受講者による支援により展開され、受講者からは、<b>組織的対応の必要</b>、それらを踏まえつつ、さらに<b>学校の課題解決に尽力していくとする姿勢</b>が示された。</p>		
<p><b>アピールポイント(アイデアや工夫)</b></p> <p>今回活用した中央研修は、「特別の教科 道徳」に例えることができます。価値を押しつけるのではなく、よりよい教育を作りだしていくための内面化を促すにはどうしたらいいかが課題になっていると思います。ミドルリーダーというキャリアステージに応じて、「考え、議論する」場面を効果的に設定することを企図しました。          本事業では、宮城県教育委員会・宮城県総合教育センターとの協働と仙台市教育委員会の支援により、<b>受講者だけでなくファシリテーターとしてなど、多面的・多角的に学びを再構成していく場</b>を設けました。それらにより教職大学院カリキュラムの充実を図ることができました。</p>		

**【全体の構想】**

<大学院選択科目その1>組織マネジメント指導者養成研修の活用 ①の1

<大学院選択科目その2>いじめの問題に関する指導者養成研修の活用 ①の2

<宮城県ミドルリーダー研修の共同実施(危機管理-いじめ防止)>

- ・同ステージの教員をファシリテートする経験 ②
- ・中央研修と同じ法理論の学習の共有と協議 ③

**【ミドルリーダーの育成】研修の有機化成果の可視化**  
アクター間の協働

**【成果】**

学びをどのように活用するか  
提案1: 特活改善推進委員会の設定

↑ 振り返り学習における受講者によるグループ発表資料(一部)

←いじめの問題研修受講後ファシリテーターに参加した集団(1)としなかった集団(0)では記述に差異がみられ、前者は「自分」「立場」「認識」「対応」など、メタ認知や対応見直しの視点等を持ったことが示された

③ 受講者123名から高い満足度(4段階・4を上位とする評価中2・1評価は1名のみ)が示されたとともに、「学校」の「課題解決」「組織」としての「対応」に尽力していきたいとする記述が中心に見られた